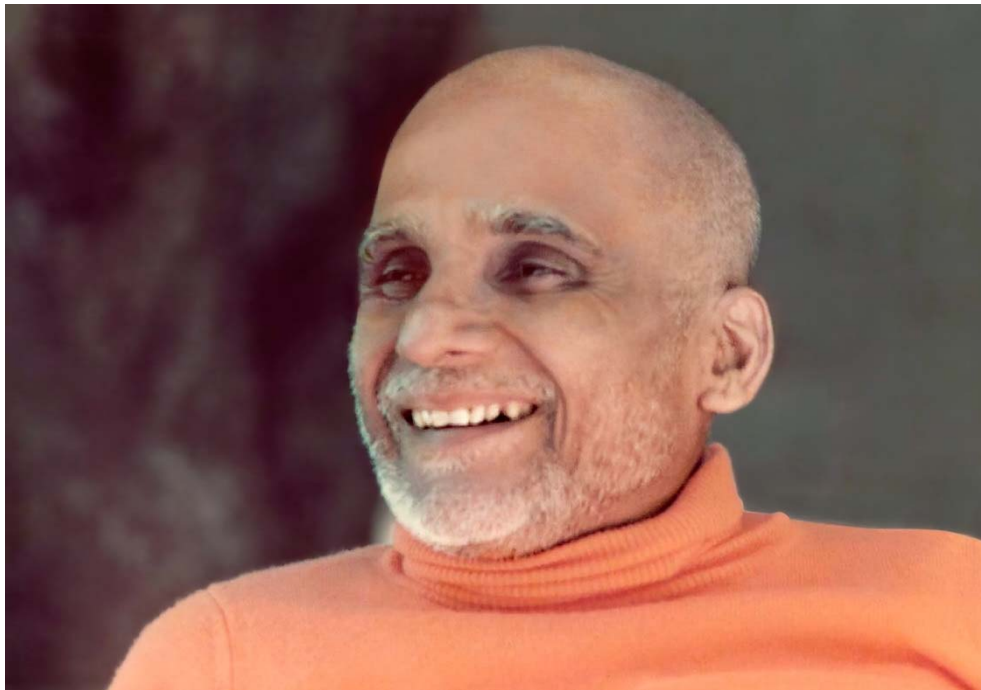


こころ  
教育の精神

The Spirit of Education

2024/11/23 版



スワミ・クリシュナンダ 著

The Divine Life Society

Sivananda Ashram, Rishikesh, India

ウェブサイト: <http://www.swami-krishnananda.org>

他の和訳: <https://yogajbooks.wordpress.com/>

教育とは、人間に秘められた神性を顕在化させるプロセスです。現在の教育制度は異国の統治者によってインドに導入されたものですが、この制度は、無防備なインド人を、統治者に仕えることができるよう教育するために導入されました。その結果、教育制度は、最も優れたもの、最も崇高で高尚なものを引き出すことを目的とする、神性なプロセスである、教育の真の目的を愚弄するものになってしまいました。今こそ、この現行システムの欠陥を認識し、教育の展望に変化をもたらす時です。インドの政治、行政が真摯に目指すべきなのは、来るべき世代を教育し、徐々に、我々の最も貴重な文化の栄光を有する完璧な模範へと成長させることです。これを実現するためには、教育制度は、単に雑多な事実や数字を若者たちに詰め込むだけのものではなく、インドの若者の心の中に眠っている、古来の伝統の理想主義を目覚めさせる、生きたプロセスであるべきです。

正しい教育は、真実を発見するプロセスです。この真実は徐々に解き明かされます。教育は、肉体的な訓練から、真理の実現、そして規律ある生き方全般にまで及びます。教育の最終的な目的は、万物の中に輝く神性を知ることです。そのプロセスでは、自己鍛錬と浄化という火の中で、真理実現の妨げとなる不純なものを取り除くのです。障害は内から取り除かなければなりません。潜在する英知の現れを妨げているものを取り除く、それが教育です。教育とは、純粋な理解と意識に相いれない性質の傾向を抑制することを意味します。教育は、単に知的な学問だけではなく、道徳的な学びを含みます。義と徳は真の教育と密接に関連しています。霊的な成長と神へ近づいていく精神を欠く教育には、何の価値もありません。、教育の初期段階において、この最も高度な完成に対する意識が明確になっている必要はありませんが、教育のどの段階においても、完全に忘れられてはいけません。ゼロがたくさん並んでいても、最初にゼロ以外の数字がなければ価値がないのと同じように、その後ろに霊的な意義がまったくなければ、この世のいかなるもの、いかなる成果も、意味のないものになります。

学校、大学では、このような教育を与えるべきです。もちろん、すべての生徒がすぐに、より高尚な人生の意義を完全に理解できるようになるわけではありません。しかし、たとえ小さな子供であっても、高潔で道徳的、善良で信心深い子に育つような方法で育てることが肝要です。誰もが古来の文化、つまり神の顕現の本質に関係する文化・教養の光へと導かれるべきなのです。内なる光が明らかになること、これが教育の証です。

真の教育の精神は、伝統的な教育システムであるグルクラヴァーサ (Gurukulavasa)、すなわち、師のもとでの学ぶことに見出すことができます。生徒の知性の程度がどうであろうと、教育の真髄は、知る能力を内面に向ける方法にあります。内面に向けるとは、必ずしも神秘的な瞑想を意味しません。それは一般的に、内面的なアプローチ、万物の

究極的な統一性の理解と一致するように生活を調整することを意味します。それは内なる人間の力を探求することであり、科学者の客観的な研究さえも可能にする能力や可能性についての知識を意味します。物質科学の手法は、知る者の深さを測ることなく、何かを知ろうとするなら、最終的には失敗に終わります。いかなる試みや取り組みも、その前提条件、すなわち、経験と能動的な主体である知る者が意味すること、含意を理解していない限り無意味です。現代の教育方法は満足のいくものではありません。なぜなら、教育において最も重要な要素である、内なる修養に十分留意していないからです。人は今、どのような思考をしているのでしょうか。若者たちは数年かけて学業を終え、大学を卒業して年齢を重ねていても、人生の基本や、人生の意義を知りません。学生に質問してみてください。いわゆる教養があると思われる若者であっても、人生を支配する中心的な事実について無知であることが明らかになるでしょう。それだけではありません。学生たちには、真の美德が欠けています。彼らには、規則正しい生活から生まれる道徳的な強さ、内面の強さが欠けています。古代、導師の元で学ぶ生徒、弟子たちは、厳格な規律の下に置かれていました。感覚的欲望を抑え、精神的エネルギーと知性を高めるような規則を守らなければなりません。古代のブラマチャリ（弟子、生徒）たちは、大きな精神力、オージャス・シャクティを持っていました。彼らは、卓越した自制によって輝く、アグニマナヴァカ（火のように輝く子）でした。弟子が導師（グル）にすべてを委ねることによって、弟子の高次の志の妨げとなるような本能的な欲望や願望を抑制することが可能となったのでした。師の指導の下で生きる目的は、本能的なものを超越し、より包括的な知性と霊性という大きな生命に隠された、精神的能力の源の光の中で生きることにあります。

普通教育では、真の人間を育てることはできません。至上完全を実現するためには、健全な肉体、清浄な心、鋭い知性、強い道徳心、そして、目的のための正しい努力を伴う霊的な人生観が一つとならねばなりません。学生は、サティヤ（真理、真実）とダルマ（正義、法）、身体的そして精神的に完全な独身主義、および道徳的に正しい生活様式を守らなければなりません。今日の学生たちが、学生の本分以外の政治や社会運動などに関心を持ちすぎているのは遺憾なことです。それらはすべて価値ある活動ですが、精神力を損なわせ、本来の教育の意味を歪めてしまいます。学生は、学生であるかぎり、注意をそらし、学生としての生活を損なうようなことに心を奪われるべきではありません。さらに、教育の目的は、物質的な豊かさだけでなく、内面の成長と修養ですが、学生たちは、このことを忘れてしまっているようです。生徒は、謙虚さ、自制心、従順さ、自己放棄、厳格な知性の体現者であるべきです。学生は、模範となる行動と、汚れない品性を備えているべきです。学生は、単に一国の市民であるだけでなく、世界、そして宇宙全体の一員となるのです。そのためには、利己的ではなく、自己犠牲の精神を持ち、道徳的で純粋な心を持つ必要があります。

靈的な理解が、学校教育に無関係だと考えるのは正しくありません。内なる魂の声に応えないのであれば、教育は不毛で無益なものになってしまいます。道徳と靈性についての授業を、毎日とは言わないまでも、少なくとも1週間に1回は行うべきです。靈性に留意することなく長時間勉強に費やしても、それは砂の上に建てられた宮殿のようなものです。至高の魂は万物に内在していますから、私たちはみな、その存在とその要求に意識を向けなければなりません。教師も、教授も、親も、生徒もみな、この文化の復興、人類の向上、そして普遍的兄弟愛の呼びかけに耳を傾け、真の教育、すなわち靈的完成による文化統合という目的を達成するために努力しましょう。

— OM —